

平成23年度版 VOL.10

かごしま

かごしま美緑展知事賞作品

みどりの基金だより

特集

緑の少年団の活動状況

市町村みどり推進協議会の取組み

かごしま美緑展の作品紹介



公益財団法人かごしまみどりの基金



グリーン太郎

はじめに

今年の3月に東北地方で大規模な地震・津波が発生し、極めて広い地域、多くの人々が甚大な被害を受けました。その際に発生した原子力発電所からの放射能漏れ事故の影響もあって、その後の復興も思うように進まない状況にあります。被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。

さて、一連の災害報道の中で、陸前高田の“一本松”が話題になりました。高田松原が今回の津波で壊滅的被害を受けましたが、そのうちの一本だけが奇跡的に生き残った、というもの。そもそもこの高田松原は、江戸時代に人の手によって植林されたとされています。人々により手厚く育てられ保全されつつ、今日に至るまでの数百年もの間、防潮・防風林、飛砂防止林として背後地の住民の暮らしを守ってきたのでありましょう。また、この白砂青松の景勝地は広く人々に親しまれていたようです。この地は、今後再び森林としての復旧が図られるのですが、一定の効果を発揮するようになるまでには、数十年の歳月を要すると思われれます。森林、自然はひとたび毀損されるとその回復には長い時間と労力を必要とします。今回の“一本松”の報道をみて改めてそのことを痛感したところです。

翻って本県の状況を見てみますと、時代の流れの中で農山村地域の過疎・高齢化が進み、また木材価格の低迷などといった要因も加わって、人々の森林に対する関心、熱意が薄れつつあります。スギ・ヒノキの人工林では、森林組合をはじめとする林業事業体、森林ボランティア団体等が頑張ってくれてはいるものの、間伐などの手入れの遅れた森林が目立つようになってきております。また、郊外に向かうと、幹線道路でさえも、路傍に雑草木やクズなどがはびこり、周辺の樹木や景観を台無しにしているところが多くなってきております。

一人でも多くの人に森林やみどりの重要性を認識してもらい、その保全のために様々な形で積極的に参加してもらうことが、ますます重要になっております。

かごしまみどりの基金では、こうしたことをふまえ（この7月1日に公益財団法人として再スタートしたところでもありますので）、これまでも増して、公明正大かつ活発な活動を展開していきたいと考えておりますので、ますますの御理解と御協力をお願い申し上げます。

なお、ここに当基金の平成22年度の取り組みの概要を紹介させていただきます。

平成23年8月

公益財団法人かごしまみどりの基金
常務理事 竹ノ内 洋 行

目次

1 緑化推進活動	
(1) 緑化推進活動の現状	
① 緑化推進の意義と歴史	1
② かごしまみどりの基金・緑化推進体制	1
③ 普及啓発	1
2 緑の募金	
(1) 緑の募金活動	2
3 緑の募金を活用した取組みの概要	
(1) 普及・啓発(緑化推進イベント等)	4
① みどりの感謝祭	4
② 九州森林の日	5
③ 植樹祭等	5
④ 全国都市緑化かごしまフェア	6
⑤ かごしま木材まつり	6
⑥ 美しい森林づくりキャラバン	6
⑦ 美しい森林づくり「かごしま美緑展」	7
⑧ 水のえがおキャンペーン	7
(2) 緑の少年団の育成と活動支援	7
① 緑の少年団の目的と組織	7
② 活動の状況	9
特集1 緑の少年団の活動状況	10
(3) 森林ボランティアの活動促進	14
① 森林ボランティアの現況と活動	14
② 森林ボランティアの日の活動・フォーラム	14
③ 森林ボランティアの育成	15
(4) その他の事業	16
① 名木・古木等緑の文化財保全事業	16
② 緑の募金による学校林等の整備	17
○ 学校林の状況	17
○ 緑の募金学校の緑整備事業	17
特集2 市町村みどり推進協議会の取組み	19
4 緑化推進活動を支える人々	
(1) 緑化活動推進員	22
(2) グリーンマスター	22
(3) 森林インストラクター	22
(4) 森林ボランティア連絡会	23
特集3 「かごしま美緑展」の作品紹介	24
■ かごしまみどりの基金の組織体制	
(1) 理事会・評議員会・運営協議会	26~27
(2) 事務局	27



豊かな緑支える 緑の募金



- 豊かな森林をつくるために
- 地球温暖化防止のために
- 地域や学校のみどりづくりのために
- 森林ボランティア、緑の少年団の育成に

■緑の募金は「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」により実施されており、公益財団法人かごしまみどりの基金に寄付される個人・法人は税制上の優遇措置があります。

春期2月1日～ 4月30日
秋期9月1日～10月31日

(公財)かごしまみどりの基金・市町村みどり推進協議会・鹿児島県

〒892-0816 鹿児島市山下町9-15 (林業会館4F) TEL099-225-1426・1477 FAX099-225-1511 <http://www.k-green.jp> E-mail:bokin@k-green.jp

1 緑化推進活動

(1) 緑化推進活動の現状

① 緑化推進の意義と歴史

森林は、木材などの供給だけでなく、水源のかん養、山地崩壊の抑止、二酸化炭素の吸収・固定、さらには気象の緩和や生物多様性の保全等々様々な働きを通じて、私たちに多くの恵みをもたらしています。また、都市空間におけるみどりは潤いのある生活環境をもたらしてくれます。こうした森林やみどりを守り育てていくことは、私たちの安全で豊かな生活環境を形成する上で重要なことでもあります。

こうした森林・緑を維持し保全する緑化推進運動は、我が国においては、第2次大戦後の荒れた国土の復旧を目的に始められました。昭和25年、時の昭和天皇をお迎えして全国植樹祭が開催されるとともに、「緑の羽根募金」活動を中核として、国土緑化活動が始められています。

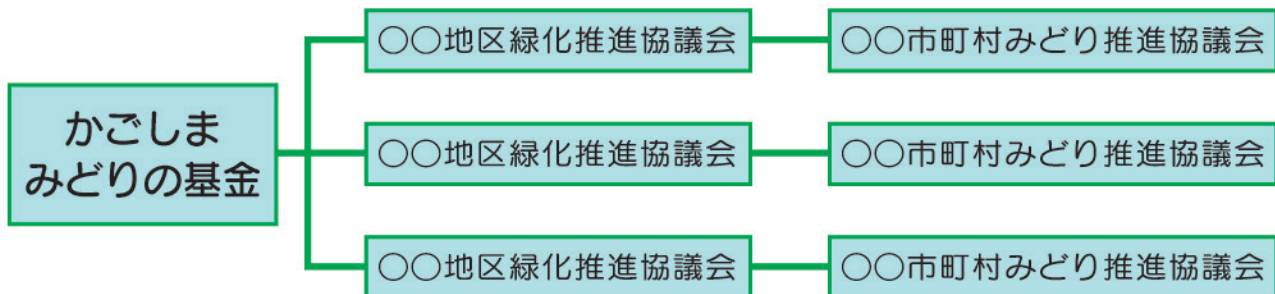
その後、平成7年に「緑の募金法」が制定されたことにより、「緑の羽根募金」活動は「緑の募金」として法的な根拠を得て、国民運動として格段の発展を遂げました。今日では多くの県民の賛同を得ながら、緑の募金活動を核として緑化推進活動が進められています。

② 本県における緑化推進体制

鹿児島県においては、昭和26年に「鹿児島県緑化推進委員会」が設立され、県土の緑化推進運動の中核として活動を始めました。

平成5年9月13日には、多くの県民の出捐をもとに、県の策定した「グリーンプラン21」に基づき「財団法人かごしまみどりの基金」が設立され、緑化推進活動を促進しています。

また、各地域振興局、支庁を単位として、地区緑化推進協議会（地区森林・林業振興協議会）が設置されるとともに、県内全ての市町村に市町村みどり推進協議会が設立されており、それぞれ、緑の募金活動をはじめ、独自の緑化推進活動を行っています。



③ 普及啓発

森林や緑の大切さや働き、森林整備や環境緑化の推進及び緑の募金活動などについての普及啓発を図るため、バスのラッピング広告、新聞、県の広報誌、ポスター及びホームページなど様々な媒体を活用し、またイベント等多くの機会を捉え広報活動を行っています。また、マツの保全を図り、県民が古来より親しんできた風習を守る趣旨で、正月用の門松カードを町内会組織等を通じて県内の各戸に配布しています。

2 緑の募金

(1) 緑の募金活動

現在の緑の募金は、平成7年に制定された「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」（通称「緑の募金法」）により基づいて実施されています。鹿児島県ではかごしまみどりの基金のみがその実施団体として認定されています。

募金活動は、かごしまみどりの基金、地区緑化推進協議会、市町村みどり推進協議会連携の下で様々な形で実施されており、町内会活動等を通じた家庭募金を中心として、企業募金、職場募金、学校募金、街頭募金などの方法で協力をいただいています。

【募金目標額と実績】

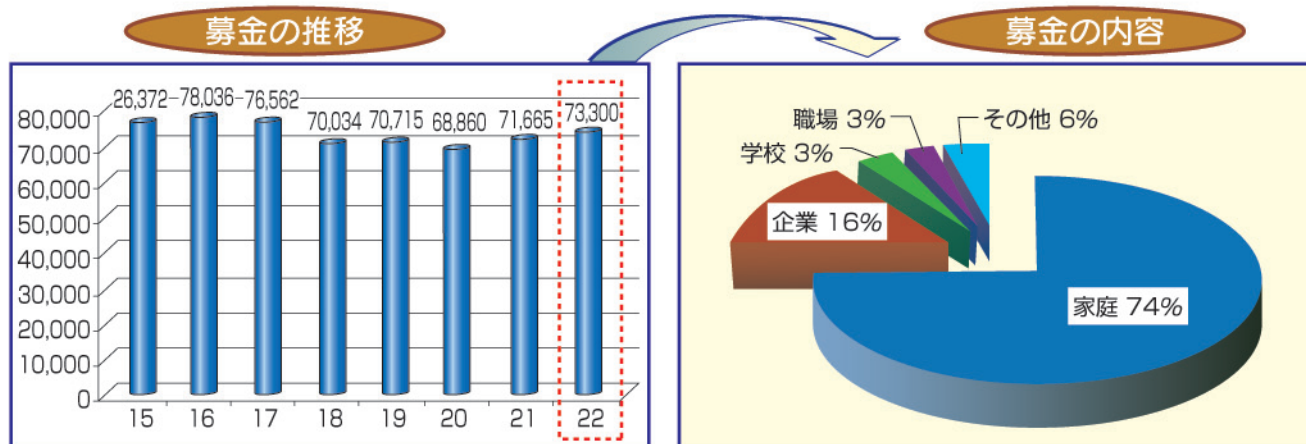
鹿児島県募金目標額 1億円

平成22年度実績 7,330万円

【募金期間】

春期 2月1日～ 4月30日

秋期 9月1日～10月31日



緑の募金スタートセレモニー
～伊藤理事長（知事）に見送られて出発～



緑の少年団も街頭募金に参加



緑の募金に協力いただいた方に差し上げる募金グッズ
(クリアファイル、伊佐ヒノキのはし、タオル)

緑の募金は、前ページのグラフのとおり、町内会活動などを通じた家庭募金が中心となっていますが、最近では企業の社会的責任活動（CSR）の一環としての協力も多くなってきています。本県内の企業では、京セラ株式会社鹿児島工場など多くの企業等から多額の寄付をいただいているところですが、平成21年度からはアサヒビールからも多額の寄付をいただいています。

【アサヒビール株式会社の取り組み】

アサヒビール株式会社では、「うまいを明日へ！プロジェクト」で全国都道府県ごとの自然や環境、文化財等の保護保全活動に、当該都道府県で消費されたスーパードライ対象商品1本につき1円を寄付する活動を行っています。

平成21年度、22年度と連続して多額の寄付があり、植栽、間伐などの森林整備や子供たちの森林学習活動に活用させていただきました。



北村南九州統括支社長から伊藤理事長へ目録贈呈

過去5年間に10万円以上の寄付をくださった企業・団体は下記の通りです。

なお、寄付をくださった企業・団体については、その都度、当基金のホームページに掲載しています。

アサヒビール株式会社、京セラ株式会社国分工場、同川内工場、鹿児島トヨペット株式会社、鹿児島銀行、鹿児島相互信用金庫、指宿清掃公社、有限会社大竹商店、ハラダ製茶株式会社、白玉醸造合名会社、えむふぁみりー会、南九州ビバレッジサービス、九州電力株式会社、株式会社上集組、県農協中央会、南日本広友会、富士通インフォネット、森林土木協会日置支部、株式会社フェニックス、しもんそマルヒラ、阪東機工株式会社、日本生活協同組合連合会、南九州ファミリーマート、南九州金属工業株式会社、山林種苗組合指宿支部、カネイヒトコト製茶

（参考）緑の募金に係る【税制上の優遇措置】

当基金は公益財団法人の認定を受けているため、募金に協力された団体、個人には次のような税制上の優遇措置があります。

法人・団体が 寄附した場合	通常の寄付金の損金算入限度額 【(資本金×0.25%+所得金額×2.5%)÷2】 +【(資本金×0.25%+所得金額×5.0%)÷2】
個人が 寄附した場合	寄付金控除額 【寄付金額（総所得の40%上限）- 2千円】まで損金算入可

こうした募金活動のほか、かごしまみどりの基金では、カレンダーバザー展の実施、緑の募金対応飲料水自動販売機の設置など、様々な募金活動に取り組んでいます。

【カレンダーバザー展】

全国の多くの企業等から寄贈いただいたカレンダーを県民に買っていただき、売上金の全てを緑の募金とする緑の募金カレンダーバザー展を実施しています。

平成22年度は、12月18、19の両日、鹿屋市の「ブラッセだいわ」および霧島市の「きりしま国分山形屋」で、また20～25日に鹿児島市の「マルヤガーデンズ」で、多くのボランティアの協力を得ながら実施しました。

【緑の募金対応飲料水自動販売機】

ペットボトルや缶コーヒーなどの飲料水自動販売機について、緑の募金対応の契約をしていただきますと売上金の2%が自動的に緑の募金となるシステムです。現在、県庁の行政棟やマリンポートかごしまなど、県の施設を中心に約20カ所に設置していますが、最近では設置に協力いただく企業も出てきています。



カレンダー・バザー展の様子
(鹿屋市 プラッセだいわ店)

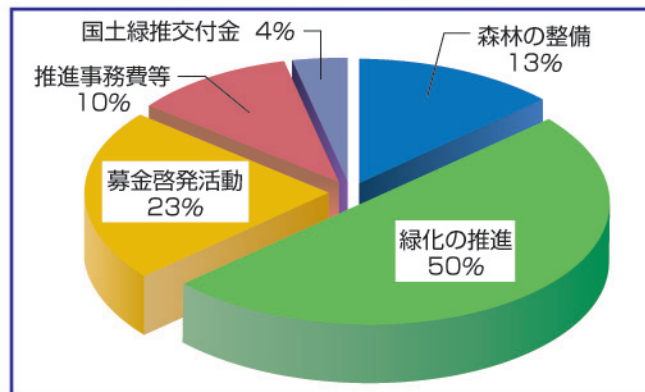
3 緑の募金を活用した取組みの概要

緑の募金については、緑の募金法で森林整備、環境緑化及びこれらについての国際協力に使用するように定められています。

本県の場合、22年度は主に緑化の推進（41%）、森林の整備（11%）に関する事業を実施しています。

なお、各市町村みどり推進協議会によりとりまとめられた募金については、募金額の6割が各協議会に交付され、市町村の自主的な森林整備や緑化活動等に活用されています。

緑の募金の使途（実績）



(1) 普及・啓発（緑化推進イベント等）

① みどりの感謝祭

県民に森林に親しんでいただくため、毎年、県からの委託を受けて、県民の森において「みどりの感謝祭」を開催しています。新緑の美しい、旧みどりの日の4月29日（現在のみどりの日は5月4日）に、式典のほか、森の散策、木工教室など多彩な催しが開催され、緑の少年団を始め、家族連れなど約2,500人が県民の森の一日を楽しみました。



開会式の様子



ボランティア等によるイベント

② 九州森林の日

平成20年度から九州7県と九州森林管理局が、毎年11月第2日曜日を「九州森林の日」と定めたことを記念して森林整備や緑化活動イベントを開催しています。

平成22年度は、県民の森において、緑の少年団や家族連れなど約500人が参加し、間伐したスギ林にカエデやムラサキシキブ、マンリョウなどを植えました。また、林業現場で活躍している高性能林業機械の実演のほか、緑の教室など多彩な催しが実施されました。



親子そろっての植樹



プロセッサ（高性能林業機械）
による採材の実演

③ 植樹祭等

○ 全国植樹祭と全国育樹祭は、国民に植樹、育樹活動に参加していただき、森林整備、環境緑化への啓発を目的として、毎年、開催されています。本県においても、天皇陛下、皇太子殿下をお招きして、昭和59年に第35回全国植樹祭、平成13年に第25回全国育樹祭が、当時の牧園町と県民の森で開催されました。

○ 県内では、毎年、地区ごとに、林業関係者、緑の少年団及び一般県民の参加の下、地区植樹祭を開催しています。かごしまみどりの基金では地区植樹祭の開催に際し、理事長からのメッセージとともに、苗木代10万円のほか、地拵えや歩道整備費等として30万円（上限）の助成を行っています。

○ 平成22年度は鹿児島など5地区で植樹祭が開催されました。

地区名	実施年月日	場 所	内 容 等
鹿児島	平成23年 2月 5日	桜島赤水町八谷地内	荒廃隣地に抵抗性マツ、ウバメガシ、ヤシャブシ、シャリンバイなど約1,630本植栽
南 薩	平成23年 1月29日	枕崎市塩浜公園	公園内にクロガネモチ、タブノキ、マテバシイ、ハマヒサカキなど約170本植栽
始 良 伊 佐	平成22年 11月20日	蒲生郷ふれあい公園	公園内にソメイヨシノ、アジサイ、クチナシ、キンモクセイ約310本植栽
大 隅	平成23年 1月29日	有明開田の里公園	公園内にヤマボウシのほかスモモ、プラムなど実のなる木約150本植栽
熊 毛	平成22年 11月19日	南種子町健康公園	公園内にヤエザクラ、サンダンカ約220本植栽

北薩地区：鳥インフルエンザ発生予防のため中止

大島地区：隔年開催のため昨年度は開催なし

④ 全国都市緑化かごしまフェア

平成23年3月18日から5月22日にかけて本県で開催された「全国都市緑化かごしまフェア」(花かごしま2011)の協賛団体として出展し、森林・林業、緑化についての啓発を図りました。



メイン会場での展示



サブ会場での緑の教室

⑤ かごしま木材まつり

毎年実施されるかごしま木材まつりには、緑の募金ブースを設け、木工体験などを楽しんでもらいながら緑の募金の呼びかけをしています。県産材の利用拡大を図ることが、森林所有者の森林経営意欲増進へ、さらには森林整備へと繋がることを期待して参加しています。



みどりの基金のブース



模擬上棟式(木を活用することも大切)

⑥ 美しい森林づくりキャラバン

美しい森林づくりとは、間伐等の保育を適切に実施するとともに、長伐期化や広葉樹林化など多様な森林づくりを推進し、みどり豊かな国土を次世代に引き継いでいこうとするものです。

この運動を進めるには林業関係者のみならず、企業や団体など多様な主体により推進していくことが大切で、森林作りへの参加を各地域の企業・団体等に呼びかけています。

平成22年度も、美しい森林づくりキャラバン活動を1月に実施し、県内各地の30力所余りの企業等に趣旨説明、森林づくりへの参加呼びかけを行いました。



美しい森林づくり協議会



キャラバン隊の企業訪問

⑦ 美しい森林づくり「かごしま美緑展」

かごしま美緑展は、県民に鹿児島のみどりのすばらしさを写真によって再認識していただき、将来に引き継いでいく気運を高めるため開催するもので、今年で5回目となります。

106点の応募があり、厳正な審査により鹿児島県知事賞1点、かごしまみどりの基金理事長賞5点、優秀賞10点が選ばれました。

知事賞をはじめとする応募作品は、4月から6月にかけて鹿児島市の山形屋、霧島市役所、鹿屋市役所、奄美空港ビルおよび川内駅において展示しました。

なお、知事賞作品は表紙に、みどりの基金理事長賞作品については巻末に掲載してあります。



美緑展審査風景

⑧ 水のえがおキャンペーン

水のえがおキャンペーンは、森林から川を経て海に至るまでの水域の環境を保全しようとする活動で、平成5年から、県、市町村、水産関係団体等で構成する鹿児島県水域環境美化推進協議会が中心となって実施しているものです。その一環としてバスツアーが催行されており、平成21年度から当基金も主催団体の一員として参画しています。

平成22年度は、県内各地から参加した30家族約100人が、南薩地区で木材加工場、鯉節加工場の見学や植樹などを体験し、水域環境の保全について認識を深めました。



初めての製材所見学



記念の植樹



丸太切りに挑戦

(2) 緑の少年団の育成と活動支援

① 緑の少年団の目的と組織

緑の少年団は、次代を担う子供たちが、緑と親しみ、緑を愛し、緑を守り育てる活動を通じて、ふるさとを愛し、そして人を愛する心豊かな人間に育っていくことを目的とした、自主的な団体です。本県では昭和48年から逐次結成され、現在、63団、1,678人となっています。

学校や地区を単位として小・中学生を中心に結成された緑の少年団は、植樹活動、森林体験活動、地域の花壇づくりなど様々な活動に取り組んでいます。

また、各緑の少年団ごとに緑の少年団を育成する指導者がおり、全ての少年団関係者を構成員として「緑の少年団鹿児島県連盟」が結成されています。

【緑の少年団一覧表】

支部	団名	小学生		中学生		合計	支部	団名	小学生		中学生		合計
		男	女	男	女				男	女	男	女	
鹿	宮	5	6	0	0	11	北	鹿島町	4	10	6	5	25
	桜洲	6	4	0	0	10		佐志	16	9	0	0	25
	桜峰愛郷	5	1	0	0	6		大馬越	8	5	0	0	13
	福平	5	2	4	6	17		藺牟田	9	10	0	0	19
	黒神中	0	0	4	5	9		永野	8	16	0	0	24
	清水中	0	0	32	33	65		紫尾	8	4	0	0	12
	吉野東中	0	0	29	16	45		里	6	5	3	3	17
	河頭中	0	0	25	15	40		蔵之元小	14	12	0	0	26
	皇徳寺中	0	0	15	5	20		鶴川内	11	8	3	0	22
	福平中	0	0	15	2	17		幣串	4	10	0	0	14
	緑丘中	0	0	11	11	22		高尾野	2	0	0	3	5
	武中	0	0	40	36	76		本城	26	27	0	0	53
	東桜島中	0	0	9	8	17		高熊山	13	13	0	0	26
	児	鹿大付属中	0	0	23	20		43	霧島山	9	5	0	0
武岡中		0	0	19	4	23	始高岡	13	10	0	0	23	
伊敷台中		0	0	9	11	20	北山	9	15	2	0	26	
長田中		0	0	26	4	30	竹子	18	19	0	0	37	
西紫原中		0	0	5	3	8	安良	32	35	0	0	67	
桜島中		0	0	63	58	121	霧島小	5	8	0	0	13	
坂元うちの		5	11	0	3	19	長谷	13	2	0	0	15	
一倉		7	9	0	0	16	川添	7	6	1	5	19	
三重岳		16	25	0	0	41	福山中	0	0	13	13	26	
鹿児島玉龍		0	0	58	62	120	蒲生くすのき	6	3	1	1	11	
島	遠見番山	2	6	0	0	8	曾於	恒吉小学校	8	6	0	0	14
	川上	9	8	0	0	17	潤ヶ野	13	15	5	6	39	
	伊集院町	14	11	0	0	25	財部北小学校	5	2	0	0	7	
	串木野	10	6	0	0	16	肝属	猿ヶ城	11	17	0	0	28
	宮ヶ浜	12	10	3	1	26	横尾岳	9	29	0	0	38	
	仙洞岡	15	9	0	0	24	大原	6	6	0	0	12	
	知覧小	14	16	0	0	30	大島	高千穂	10	8	0	0	18
	清水	7	6	0	0	13	大山	8	9	0	0	17	
	青戸	8	10	0	0	18	合計	451	464	424	339	1678	

② 活動の状況

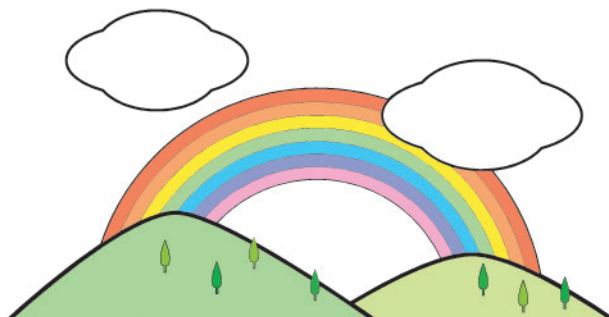
各緑の少年団は、鹿児島県と当基金などが県民の森で開催する「みどりの感謝祭」への参加やそれぞれの地域において森林体験学習や緑化活動のほか、街頭募金などの緑の募金活動にも取り組んでいます。また、毎年8月の第一土曜日、日曜日には、緑の少年団活動発表大会と交流集会在開催され、多くの少年団が参加しています。交流集会では、県民の森において森の散策やキャンプファイヤー、そしてテント宿泊など楽しい2日間を過ごします。



緑の少年団活動実績発表と表彰式（霧島市溝辺町みそめ館）



発表会後の交流集会（左：みそめ館 右：県民の森）







緑の少年団の活動状況

緑の少年団は、それぞれの地域において活動していますが、各地域で活動の様子を紹介します。


一 倉 緑の少年団 (鹿児島市)

団員	男子 7名	女子 9名	合計 16名	
主な活動の様子	<p>本校の緑の少年団は、平成2年3月に結団され20年余りの歴史を重ねています。3年生以上の全児童が団員となり、ドングリの苗作りやドングリの植樹、緑の募金活動を行っています。ドングリの苗作においては「みどりの基金」から指導者を招聘し、種まきや苗のポットへの植え替えを行い、3年物の苗は桜島等での植樹祭にて植樹をおこなってきました。また、「緑の募金」活動は、10月と2月の2回、喜入地域内のスーパー等3カ所において実施し、森づくりや森林を守り育てる啓発活動の一助となっています。</p>			 

串木野緑の少年団 (いちき串木野市)

団員	男子 10名	女子 6名	合計 16名	
主な活動の様子	<p>私たち串木野緑の少年団は、冠岳小学校の全校児童16名で協力しながら活動を頑張っています。私たちの冠岳小学校は豊かな自然に恵まれていて、推定270歳の大ソテツや、ギンナンがたくさん実る大イチョウがあります。また、毎年アオバズクが子育てをするセンダンの木もあり、みんなでアオバズクの子育てを見守っています。</p> <p>みどりの大切さを学ぶ学習や地域の美化活動緑の募金活動などにも一生懸命に取り組んでいます。</p> <p>※写真左 本校で巣立ったアオバズクのヒナ ※写真右 かんむりだけ山市 出演の様子</p>			 

清水緑の少年団（南九州市）			
団員	男子 7名	女子 6名	合計 13名
主な活動の様子	<p>清水校区は、地域の名前の由来とされている「日本の名水百選」に選ばれた清らかな水が湧き出し、とても自然豊かな環境です。毎年学校の隣を流れる「せせらぎ川」清掃や、岩屋公園内の「どんぐりの森育樹活動」また、川辺二日市では緑の募金活動など多くの活動を行っています。森林や緑を大切にする活動を通して豊かな人間性を養うことを目標に、これからも緑の少年団活動に取り組んでいきます。</p>		
			

仙洞岡緑の少年団（枕崎市）			
団員	男子 15名	女子 9名	合計 24名
主な活動の様子	<p>金山小「仙洞岡緑の少年団」は昭和55年に結成以来33年を数えます。主な活動は稲作活動、そば植え・そば打ち体験、川の水質検査、学校林遠行・美化作業等です。また、学校の授業の中でも毎年、森林環境学習や木工製作、2年に1回のしいたけコマ打ち活動等を行っています。どの活動も自然豊かな地域の特色を生かした取組として定着しています。そして、地域の多くの方々の御支援を受けながら、子どもたちも生き生きと楽しく活動に取り組んでいます。</p>		
			

佐志緑の少年団（さつま町）			
団員	男子 16名	女子 9名	合計 25名
主な活動の様子	<p>佐志小学校では5・6年生になると緑の少年団に入ります。学校での日々の緑化活動では、花いっぱいの学校を目指して、花作りに頑張っています。これまで、間伐材を活用した椎茸駒打ちやプランター、樹名板作り等を行いました。今年度は、初めて枝打ち体験を計画しています。学校林がないので、どのような体験ができるか楽しみです。また、川薩地区の交流会も楽しみの一つです。様々な活動をとおして、自然の大切さや木々の役割に関心を持ち、環境活動にも取り組んで行きたいと思っています。</p>		
			

蘭牟田緑の少年団（薩摩川内市）

団員	男子 9名	女子 10名	合計 19名	
主な活動の様子	<p>私たちの学校は、ラムサール条約に登録されたベッコウトンボの生息地である蘭牟田池の麓にあります。私たちは蘭牟田池を中心にした豊かな自然を守るための活動をしています。蘭牟田池周辺で、春は桜の植樹をし、夏は清掃活動を行い、梅マラソンの冬の1日には、毎年緑の緑の募金活動も行います。近年、蘭牟田池で増えてしまった外来魚のブルーギルやブラックバスの駆除も校区の方々と協力して行っています。ベッコウトンボをはじめとする様々な生き物が安心して生活できる自然豊かなふるさとをこれからも大切にしていきたいと考えています。</p>			



福山中緑の少年団（霧島市）

団員	男子 13名	女子 13名	合計 26名	
主な活動の様子	<p>本団は、結団7年を迎え、現在全校生徒26名で構成されています。「第10回記念どんぐりころころ植樹祭」では、団員全員で2～3年育成した苗木と記念樹の植樹を1・2年生全員で行いました。また、校内緑化でも、学級花壇やプランター用の花の種蒔き、定植や管理、グリーンカーテンの設置、地域住民への花苗等の無償提供などを行い、緑を守り、育て、豊かな自然を後世に残していくことに貢献していきたいと活動しています。</p>			



川添緑の少年団（湧水町）

団員	男子 8名	女子 11名	合計 19名	
主な活動の様子	<p>当少年団は、川添地区で結成され、地区の小学生と中学生は全員加入しており、地区の人との交流も活動のひとつになっています。</p> <p>昭和58年の設立以来、地区清掃作業や老人クラブとの交流事業にも参加し、地域と一体となった活動を行っており、鬼火焚きや七夕飾りなど時節の伝統行事の継承にも努めています。</p> <p>また、昭和59年に植栽した「川添緑の少年団の森」の下草刈りや枝打ち、間伐も継続して行い、緑を守りふるさとを大切にする心を育てる活動を現在も実践しています。</p>			

財部北小学校緑の少年団（曾於市）

団員	男子 5名	女子 2名	合計 7名	
主な活動の様子	<p>本少年団は林業の町、曾於市財部町で誕生し活動しています。学校林や花園の世話、みどりの感謝祭、植樹祭へ参加することで、自然の素晴らしさを感じ取る活動を行っています。様々な体験活動として、田んぼの中でバレーを行う曾於市どろんご大会への参加や、学校周辺の地域探検など、自然と人の関わりも学んできています。平成22年度は、特に谷川内ダム堤体完成式に参加しダムの役割を知りました。また、「未来につなぐ森林環境教育推進事業（しいたけ栽培体験学習）」を実施していただき、森林の役目や人の関わり、キノコの特徴、椎茸の育て方等学びました。駒打ち体験も行い自分のほだ木に椎茸ができることを楽しみにしています。更に私たちの少年団は地域の行事にも積極的に参加しております。</p>			

横尾岳緑の少年団（鹿屋市）

団員	男子 9名	女子 29名	合計 38名	
主な活動の様子	<p>本団は鹿屋市の南部に位置し、設立は昭和52年2月19日で34年目になります。設立目的は「先人たちが守り育ててきた地域のシンボルである、横尾岳の森林を守る活動を展開し環境資源の保護など自然を愛し、社会を愛する心豊かな人間を育成する」としています。</p> <p>団の活動として、毎年8月に先輩たちが植樹した紫陽花の手入れや展望台の清掃、県道のゴミ拾いなどの活動、体験学習としてシイタケの駒打ち体験を2月に開催し恒例の事業となっています。指導者のみならず保護者、地域の皆様の協力があることでできるものと考えています。体験学習、奉仕活動、レクをとおして心豊かな人間が育つことを願って活動を続けます。</p>			

高千穂緑の少年団（和泊町）

団員	男子 10名	女子 8名	合計 18名	
主な活動の様子	<p>和泊町内（4小学校）の5・6年生で構成されています。</p> <p>沖永良部島には県本土のような山らしい山は無いため、夏休みと冬休みに宿泊研修を行ない、木工教室、野草料理教室などを通して、自然環境への学びを深めています。また、平成18年度からシイタケの駒打ちにもチャレンジしており、年々ほだ木の本数も増え、恒例のしいたけ狩りも毎年行っています。</p> <p>今後も町内における植樹活動などを広げ、また、身近な緑化活動を通して、さらに緑（自然）と親しむ心を持ってもらえたらと思っております。</p>			

(3) 森林ボランティアの活動促進

① 森林ボランティアの現況と活動

森林をはじめとした緑の重要性に高い意識を持つ県民が、自発的に森林ボランティア団体を結成し、植樹、育樹活動に取り組んでいます。現在、森林ボランティアネットワークに、27の団体、1,212名の個人が登録されています。また、森林ボランティア活動を行う森林フィールドとして、29カ所、417haが登録されています。

各森林ボランティア団体は、地域の特性や構成員の持っている知識・技能を生かしながら、植栽、間伐等の森林整備、子どもたちを対象とした森林学習、木工・クラフト、県民を対象とした自然観察会の開催など多彩な活動を展開しています。また、独自のボランティアフィールドを持つ団体も多く、地域に根ざした活動を行っています。

かごしまみどりの基金では、これらの団体を積極的に支援しています。

森林ボランティアの活動のようす



イベントで（森の素材を利用したクラフト教室）



地域で（子供を対象にした森林・林業体験活動）

② 森林ボランティアの日の活動・フォーラム

○ 森林ボランティアの日の活動

9月第3日曜日は「森林ボランティアの日」となっており、本県でも多くのボランティアが森林整備等の活動を実施しています。

平成22年度は、9月19日、始良市の建昌城址公園で開催されました。同公園は、史跡でもあり、始良市が森林公園として鋭意整備を進めているところです。

当日は、県下各地で活動している森林ボランティアのほか、行政や企業関係者、地域住民など約350名が森林整備、草刈り、歩道整備等に汗を流しました。



歩道の整備



雑木竹の整理

○ 森林ボランティアの日フォーラム

森林ボランティアの日の関連行事として、平成23年6月5日、県歴史資料センター黎明館講堂において、フォーラム「美しい森林を育てる企業の森づくり」を開催しました。

アサヒビール株式会社アサヒの森環境保全事務所長の松岡洋一郎氏から「アサヒビール社有林「アサヒの森」の森林経営」と題して、同社が広島県に所有する2,165ヘクタールの社有林での取り組み等について講演をいただきました。また、森林ボランティアグループ山輝会の副会長で一級建築士の喜久忠人氏からは、「アフリカ・セネガルでの木工指導」というテーマで活動報告をしていただきました。

森林ボランティア会員など約150名の出席者は熱心に聞き入っていました。



松岡洋一郎氏の講演



喜久忠人氏の活動報告

③ 森林ボランティアの育成

○ かごしま森林の学校・森林ボランティア技術研修

かごしまみどりの基金では、平成20年度から「かごしま森林の学校」として森林・林業に関する知識、資格取得や森林体験学習の実習など年間11回の講座で森林インストラクター・森林ボランティアの養成のための講座を開催しています。22年度は32名が講座を履修しました。

また、チェーンソー、刈払機の操作など森林ボランティア活動に必要な資格を取得するための「森林ボランティア技術研修」(県からの受託事業)を、毎年、数回開催しています。22年度は初級70名、中級15名が受講しました。

このほかに通信講座の受講を案内するなど、様々な研修の機会を設けて森林ボランティアの育成を図っています。

かごしま森林の学校



植物分類(左)、野外活動(中央)等々多くのカリキュラムを経て無事終了(右)

森林ボランティア技術研修



座学



刈払機の取扱



チェーンソーによる伐採

(4) その他の事業

① 名木・古木等緑の文化財保全事業

この事業は、緑の募金を活用し、県内各地に賦存する名木・古木等を保全することにより、県民の森林・林業への理解を深めるとともに地域のみどりを保全するため平成21年度から実施しています。この事業により保全する対象は、県内各地に賦存する名木・古木はもとより、特に文化財などに指定されていなくても地域の県民に親しまれている樹叢等も含まれます。事業は、各市町村みどり推進協議会からの申請により、樹木医の診断を受け、その結果に基づき保全工事を実施します。

平成22年度は、下記の表の通り14件の申請があり、それぞれ診断をした上で、9件の保全工事を実施しました。

(太字が保全工事を実施したもの)

	名 称	所 在 場 所	樹 種, 本 数, 樹 齢		
1	ユーカリ	鹿児島市喜入町 喜入中学校	ユーカリ	1本	80~100年
2	小田のクス	肝属町南方小田地内	クス	1本	約400年
3	住吉小の大木ガジュマル	知名町住吉 住吉小学校	ガジュマル	1本	112年
4	三窪のイヌマキ	日置市吹上町与倉地内	イヌマキ	2本	約300年
5	千本楠	日置市吹上町中原地内	クス	21本	約800年
6	藤崎家の大楊梅	鹿児島市桜島藤野町地内	ヤマモモ	1本	約400年
7	楠田神社の大イチイガシ	始良市蒲生町北地内	イチイガシ	1本	約230年
8	末吉小の大イチョウ	曾於市末吉町二之方 末吉小学校	イチョウ	1本	約120年
9	羽山神社の杉	霧島氏福山町佳例川地内	スギ	1本	約250年
10	高座神社のナギ	霧島市国分川原地内	ナギ	樹叢	約800年
11	国頭小のガジュマル	和泊町国頭 国頭小学校	ガジュマル	1本	不明
12	ガジュマル	和泊町和泊地内	ガジュマル	1本	不明
			黒檀	1本	不明
13	鷹屋神社の銀杏	霧島市溝辺町麓地内	イチョウ	1本	不明
14	県立図書館の薄墨桜	鹿児島市城山町地内	薄墨桜	2本	不明

No8 末吉小の大イチョウ



緑葉が落ちてしまっていた



傷んだ根を治療し…



土中に空気を循環させるパイプを埋設し…



周囲の土を入れ替えた



春、見事芽吹いた大イチョウ

No13 鷹屋神社の銀杏



幹が高い所まで腐れ、大きな「ウ口」(空洞)ができていた



腐れを取り除いて防腐処理をし、ウ口の底面の土壌環境改善などをし、補強を施した上で…



外周の開口部(傷口)をウレタンでふさぎ…



表面仕上げを施した



保全措置の完了

② 緑の募金による学校林等の整備

○ 学校林の状況

小中高校生の森林教育、環境教育、勤労教育の場としての学校林は、小中高校に310校、1,214ヘクタールあります。しかし、近年、スギやヒノキなどの植栽木が大木となり、児童生徒やPTA等の手に負えなくなるなどの理由から放置されるケースが多く、必ずしも学校林活動が活発とはいえない状況にあります。このため、かごしまみどりの基金では、平成21年度から緑の募金を活用した助成制度を始めました。

学校林の現況		
区分	学校数	面積 (ha)
小学校	203校	596
中学校	78校	368
高校	29校	250
計	310校	1,214

○ 緑の募金学校の緑整備事業

この事業は、児童・生徒等が森林・林業・緑への理解を深めるとともに情操を育むため、学校林整備及び学校環境緑化(県産材木製施設を含む)を推進するものです。

この事業の対象は、県内の小中高校の学校林及び保育園・幼稚園・大学・短大を含む学校の校庭とし、整備はできる限り、児童生徒やPTAの手による実践活動として実施することとしています。

平成22年度の実施校は次の通りです。

学 校 名	事業区分	実 施 内 容
霧島市立牧之原中学校	学校環境緑化	杉丸太、板材、輪切りを利用したパーゴラ、すのこ、木製アプローチ、看板をPTAと生徒が一緒に制作 (事業費 500千円)
鹿児島県立伊佐農林高等学校	学校環境緑化	杉丸太100本などを用いてログハウスを先生の指導のもと全校生徒で制作 (事業費451千円)
さつま町立柊野小学校	学校環境緑化	間伐材を利用したベンチテーブルセットの制作や間伐材プランターへの球根の植栽、ハナミズキの植栽を教諭・児童が一緒になって実施 (事業費 194千円)
南さつま市立大坂小学校	学校環境緑化	間伐材を利用したベンチ、プランター花壇の枠などの製作、看板・樹名板設置を教諭・児童が一緒になって実施 (事業費 304千円)
南九州市立宮脇小学校	学校林の整備 学校環境緑化	学校林に看板を設置するとともに、校庭内にベンチ・テーブルセットの製作、樹名板の設置、ケヤキの植栽など卒業する6年生とPTAが一緒になって実施 (事業費 420千円)

霧島市立牧之原中学校の事例



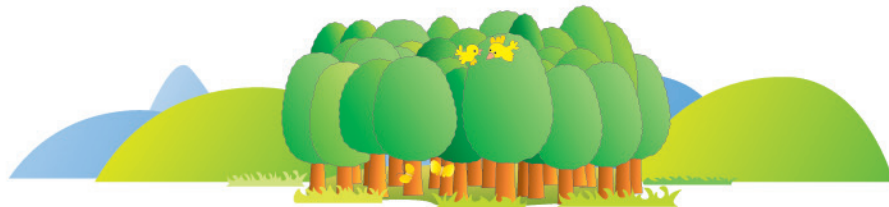
指導をもらいながら懸命に製作



木製のアプローチ、パーゴラ等完成



緑の募金事業の看板





みどりの募金を活用した 市町村みどり推進協議会の取組み

各市町村みどり推進協議会では、自治会等と連携しながら家庭募金、企業募金、イベント募金等様々な形での募金活動を実施しています。その募金はいったんかごしまみどりの基金に納められた後、約6割がそれぞれに還元交付され、市町村みどり推進協議会では交付金を基に、地域の実情等をふまえた自主的な森林整備や緑化推進の活動を展開しています。

以下、その取組みの一部を紹介します。



鹿 児 島 市 緑 化 推 進 委 員 会	
<p>緑の募金 事業紹介</p>	<p>鹿児島市緑化推進委員会では、間伐など森林整備の大切さについて理解を深めてもらうため、市民を対象とした間伐体験等を行っています。</p> <p>また、緑化の推進や緑化意識の高揚を図るため、緑の募金に取り組んでいる学校や町内会等に対して樹木や資材を贈呈しています。学校に対しては、森林が持つ様々な機能について理解を深めてもらうため、森林に関する書籍等の贈呈も行っています。このほか、募金活動に際して緑化グッズの配布や、緑化推進団体への助成を行っています。</p>  
南 九 州 市 み ど り 推 進 協 議 会	
<p>緑の募金 事業紹介</p>	<p>南九州市みどりの推進協議会は、市民参加の緑づくりや環境教育に努め、自然豊かで創造力と活力に満ちた暮らしと、いのちが輝く“こころ”やすらぐ街づくりを推進するため「緑の募金推進事業」を活用し、市内20地区公民館への緑化整備費助成、市内自治会への緑化器具の配布・花の種の配布、小中学生を対象とした夏休み木工教室・シイタケ種駒打ち体験、緑の少年団への運営補助（3団体）、等を実施しています。</p> <p>「緑の募金運動」は、家庭募金が中心ですが、緑の少年団による各種イベントでの街頭募金などを行い皆様からの温かい募金を頂いております。</p>  <p>シイタケ 種駒打ち体験→</p>  <p>←夏休み木工教室</p>

出水市みどり推進協議会

緑の募金 事業紹介

日頃接する機会の少ない森林に、造林作業体験を通じて触れ合うことで、森林に対する関心・理解を深めてもらうことを目的として、当協議会では、市民ボランティアによる森林の下刈作業を実施しています。夏場の開催にもかかわらず、毎回多くの参加をいただいています。苗木を覆い隠すように生い茂った雑草を前に、参加者らは造林鎌を手に、中には慣れない手つきで汗びっしょりになりながら作業に励んでいただいています。作業が終わり、刈り取られた雑草のもとから姿を現した苗木は、再び息を吹き返したかのように元気な姿を見せてくれます。参加者らは、きれいに刈り取りが済んだ作業場所とその周辺一帯に広がる森林に、充実感と自然の美しさを実感しています。



【写真】
ボランティアによる
下刈作業

霧島市みどり推進協議会

緑の募金 事業紹介

霧島市みどり推進協議会では、様々な形で募金活動を実施しています。自治会を通じた家庭募金を中心となって、企業募金、職場募金、学校募金及び街頭募金等の方法でご協力いただいています。この募金を霧島市内の小中学校及び各市民団体に交付して、緑化推進活動を行っています。平成22年度は、霧島神宮参道周辺、霧島川北地域でのモミジ、サクラの植樹やJR肥薩線霧島温泉駅構内の花壇整備等様々な活動を行うことができました。平成23年度も緑の募金を利用して、市内各地で緑化推進活動を行う予定です。



志布志市みどり推進協議会

緑の募金 事業紹介

志布志市みどり推進協議会では、「夏本番出かけよう森と海へ」と題して、小学5、6年生を対象に2泊3日の日程で宿泊型の体験学習を実施しました。これは、未来のある子どもたちに少しでも自然の持つ重要性を認識してもらうため、木工教室、自然散策、川遊び、山と海の学習等を子どもたちに体験してもらう事業です。子どもたちは楽しみながら自然とふれあい、自然の大切さを学んだようでした。

また、その他にも親子でしいたけの駒打ちを体験してもらう事業や応募形式で植樹を実施し、市内の緑化を推進したり、市内をみどりいっぱいにするを目的とし、また、環境にも配慮した取り組みとしてみどりのカーテン事業を実施しました。



垂水市みどり推進協議会

緑の募金 事業紹介

本協議会では緑の募金事業を利用して、学校環境緑化事業、公共施設施設緑化事業、地域住民の自発的な植栽活動を推進しています。

今回は地域住民の自発的な植栽活動について紹介します。城山団地振興会では毎年、子供会主催による「桜の植樹」を実施しています。平成14年から植えられた桜は、小学生の入学を記念して行われるもので、本年度で合計100本になりました。

桜島を背景にみる桜は絶景で、桜吹雪が舞う季節は地域住民の憩いの場所となっています。

今後も緑の募金事業を活用し、地域住民の自発的な植栽活動を支援します。



知名町みどり推進協議会

緑の募金 事業紹介

○植樹祭及び沖泊海浜公園ボランティア清掃

緑化思想の高揚及び環境美化を図るため、平成22年4月29日に知名町みどり推進協議会と知名町シルバー人材センターの共催により、第11回知名町植樹祭及び沖泊海浜公園ボランティア清掃を実施しました。

当日は、大山緑の少年団、町役場、町議会、町区長会、航空自衛隊第55警戒隊、周辺住民ら約200人が参加しました。沖泊漁港、沖泊海浜公園にソテツ600本を植樹後、ボランティア清掃を行いました。



4 緑化推進活動を支える人々

(1) 緑化活動推進員

かごしまみどりの基金では、緑の少年団活動をはじめとする地域の緑化推進活動を促進するために、県内の各地域に緑化活動推進員を委嘱しています。現在、県内各地域で活躍している緑化活動推進員は次の13名です。緑化活動の相談・指導等を行っています。

活動地区	氏名	連絡先	活動地区	氏名	連絡先
鹿児島	柳原 美佐雄	099-264-7552	伊佐	小山 五十三	0995-26-1850
鹿児島	片野坂 清則	099-258-9214	始良	花田 茂昭	0995-76-1626
日置	山下 悟	099-272-3489	曾於	堀之内 裕行	099-476-3611
指宿	今村 俊一	0993-22-4255	肝属	早崎 郁郎	0994-40-1259
南薩	芝原 仁	0993-78-3175	熊毛	奈尾 正友	0997-23-8418
川薩	坂口 睦徳	0996-21-4181	大島	瀧 源廣	0997-53-3690
出水	芝越 博美	0996-79-2360			

(2) グリーンマスター

「みどりづくり」や「森林内での野外活動」などの指導・普及をボランティアとして地域で自ら積極的に活動する人を、鹿児島県知事が「グリーンマスター」として認定しています。

平成22年度末現在の認定者は次の方々です。

氏名	住所	氏名	住所	氏名	住所
清水 建司	鹿児島市	四本 紘	鹿児島市	野村 利憲	始良市
日高一 富	鹿児島市	山下 秋厚	鹿児島市	山浦 安生	霧島市
村場 和敏	鹿児島市	上村 静好	日置市	居細工 実	霧島市
今釜 春良	鹿児島市	上野 良子	南さつま市	竹中 勝雄	湧水町
林 武徳	鹿児島市	上野 義光	南さつま市	有水 文子	湧水町
樋高 つる子	鹿児島市	山下 謙	指宿市	小山 五十三	伊佐市
久永 悟	鹿児島市	秋元 智雄	指宿市	福元 良男	伊佐市
池田 和吉	鹿児島市	森山 リミ	薩摩川内市	松山 みち子	鹿屋市
高須 順子	鹿児島市	中脇 岩男	薩摩川内市	新牛込 和弘	鹿屋市
上村 行生	鹿児島市	荒木 妙子	出水市	川崎 喜久	垂水市
内野 一幸	鹿児島市	肱岡 和彦	出水市	東 顕	肝付町
喜久 忠人	鹿児島市	清家 優子	始良市	馬場 興市	志布志市
塩川 英彬	鹿児島市	徳部 健一	始良市	瀧 源廣	奄美市
中島 和美	鹿児島市	大浦地 政廣	始良市		

(3) 森林インストラクター

かごしまみどりの基金では、県民や緑の少年団等に森林の案内や林業についての知識を与える活動を実施する「森林インストラクター」を養成しています。

基金が実施する一定の研修を受講終了することが必要で、これまでに「鹿児島県森林インストラクター講座」（平成4年～8年）及び「平成の山学校」（平成14年～17年）の研修により242名、「かごしま森林の学校」（平成20年度～）で86名を養成しました。

(4) 森林ボランティア連絡会

森林ボランティア団体の相互の連携を図りながら、森林整備などの活動の効果的推進を図ることを目的に「鹿児島県森林ボランティア連絡会」が結成されています。現在25団が加盟しており、それぞれ、森林整備活動や募金活動、森林ボランティアの日の活動参加など積極的な活動を展開しています。

団 体 名	代表・事務局	団 体 名	代表・事務局
鹿児島県森林インストラクター連絡協議会	上 村 行 生 (鹿児島市)	はっぱクラブ	坂 元 光 則 (薩摩川内市)
鹿児島グリーンヘルパーの会	北 方 睦 雄 (鹿児島市)	田舎の環境を守る会	末 吉 弘 典 (薩摩川内市)
NPO法人さとやま	山 口 友 孝 (鹿児島市)	NPO法人四季の会	塩 川 英 彬 (始良市)
みどりの二季会	四 本 紘 (鹿児島市)	鹿児島県グリーンマスターの会	大浦地 政 廣 (始良市)
森林の学校一歩会	上 原 節 雄 (鹿児島市)	蒲生郷「おかべ会」	若 月 覚 (始良市)
さつまグリーンヘルパーの会	内 山 芳 彬 (鹿児島市)	美しい「緑山会」	山 元 昭 良 (始良市)
グローバルフォレスター	福 永 敦 子 (鹿児島市)	い～さ竹林の学校	福 元 良 男 (伊佐市)
フォレスト22	宮 内 英 世 (鹿児島市)	グリーンアートさつま	小 山 五十三 (伊佐市)
かごしまふるさとインストラクター会 山輝会 (さんきかい)	清 家 優 子 (鹿児島市)	吉松自然を考える会	竹 中 勝 雄 (湧水町)
かごしまどんぐり三期会	有 田 肇 (鹿児島市)	NPO法人森のヘルパー森林整備隊	前 田 誠 (曾於市)
森と木の研究所	大 坪 弘 幸 (鹿児島市)	林生会	脇 田 博 (志布志市)
NPO法人縄文の森をつくろう会	今 村 俊 一 (指宿市)	大隅森づくりの会	出 井 一 夫 (鹿屋市)
NPO法人エコ・リンク・アソシエーション	下 津 公 一 郎 (南さつま市)		



「かごしま美緑展」作品紹介

鹿児島県知事賞



【初雪の新燃岳】 福重 千代子 (霧島市)

かごしまみどりの基金理事長賞



【大樹の下で】 森 浩一郎
(鹿児島市)



【風雪にたえ日本一】 大迫 豊昭
(薩摩川内市)

かごしまみどりの基金理事長賞



【木々が育む恵みの郷】 中原 忠彦
(鹿児島市)



【蘇鉄に見守られて】 武田 牧子
(瀬戸内町)



【春うらら】 春日 富士子 (霧島市)

かごしまみどりの基金の組織体制

(1) 理事会、評議員会、運営協議会

【理事会名簿】

平成23年7月1日現在

役 職	氏 名	所 属
理 事 長	伊 藤 祐 一 郎	鹿児島県知事
常 務 理 事	竹 ノ 内 洋 行	かごしまみどりの基金
理 事	大 山 直 幸	鹿児島市経済局長
理 事	和 気 純 治	さつま町副町長
理 事	白 石 紘 一	(株)本坊酒造取締役
理 事	猶 木 龍 美	県森林組合連合会副会長
理 事	後 釜 禮 子	県指導林家
理 事	山 口 一 郎	県農業協同組合中央会
理 事	寺 蘭 玲 子	鹿児島女子短期大学教授
理 事	内 門 公 孝	県環境林務部長
監 事	間 世 田 武 裕	県造園建設業協会会長
監 事	屋 島 明 人	県出納局長

【評議員会名簿】

平成23年7月1日現在

氏 名	所 属
山 野 隆	県森林組合連合会専務理事
宮 ノ 前 秀 明	県治山林道協会専務理事
三 窪 等	県木材協同組合専務理事
梅 北 宜 克	県漁業協同組合連合会副会長
安 藤 司	県建設業協会専務理事
寺 床 勝 也	鹿児島大学教育学部准教授
玉 川 恵	(株)丸屋本社代表取締役社長
山 野 真 理	カルチャーコネクション代表
岸 尾 隆	鹿児島県市長会事務局長
坂 上 省 悟	鹿児島県町村会事務局長
杉 元 羊 一	県教育庁次長
川 原 啓 一 郎	県環境林務部次長

【運営協議会名簿】

平成23年7月1日現在

氏 名	所 属
池 田 孝	県市長会 曾於市長
永 野 和 行	県町村会 肝付町長
鬼 塚 不 二 夫	鹿児島市緑化推進委員会委員、かごしま森林組合理事
永 岩 和 幸	県林業研究グループ連絡協議会
地 福 俊 幸	緑の少年団県連盟本部長
伊 佐 幸 子	県地域女性団体連絡協議会会長
塩 川 英 彬	県森林ボランティア連絡会代表
藤 田 一 知	南日本新聞社政経部長
末 永 考	鹿児島青年会議所理事長
森 本 義 春	鹿児島森林管理署長
川 原 啓 一 郎	県環境林務部次長

(2) 事務局・スタッフ

職 名	氏 名	職 名	氏 名
常 務 理 事	竹ノ内 洋 行	事 務 局 長	井 内 祥 人
事 務 局 次 長	原 口 敏 夫	総 務 企 画 係 長	松 元 亜 希 子
主 事	川 畑 翔 子		
臨 時 職 員	南 條 鈴 子	臨 時 職 員	室 屋 恵 理

事務局

公益財団法人 かごしまみどりの基金

住 所	〒892-0816 鹿児島市山下町9-15
電 話	099(225)1426 (225)1477
F A X	099(225)1511
E - m a i l	bokin@k-green.jp
ホームページ	http://www.k-green.jp
発行年月日	平成23年8月1日